

およそ一ヶ月前に以下のように STI Forum の Side event として、  
**Future Urban Design to promote achievement of the SDGs through STI**  
日時: 5<sup>th</sup> May 2021, 19 – 21 (EDT)、(日本時間 5 月 6 日 8 時から 10 時)  
が開かれた。ホストをした有川より、そのサマリーを報告します。

本イベントは、IATT 用レポートの以下の資料の Arikawa et al. の報告書にある、未来社会像に対する意見交換でもあった。本資料は、日本工学アカデミーのなかの STI2050 委員会の分科会 1 (主査: 杉山郁夫委員) の議論内容が整理され掲載されたものである。(引用番号がずれているので修正を依頼予定)

<https://sdgs.un.org/sites/default/files/2021-05/IATT%20report%20on%20emerging%20techs%202021.pdf>

サイドイベントは、石川機構教授のほか、EAJ STI2050 委員会より、沖大幹委員長、中島義和委員、外部講師 2 名を含む 5 名で、発表ならびにパネル討議を行った。当日聴講者数は、66 名であった。

石川先生のご発表をまとめると：

グリーンインフラは、人類が危機に直面したときに作られました。グリーンインフラは、自然環境の保護、生物多様性の豊かさ、文化的景観の尊重を基本とした、地球環境の持続可能性のための戦略的計画によって作られた社会的共通資本です。したがって、グリーンインフラは、気候変動の緩和・適応政策を適用することで、自然災害から安全な環境を提供し、市民の生活の質を向上させることに貢献します。

石川先生に基調講演をお願いするにあたり、打合せをさせていただき、

- ・ 国家 100 年
- ・ 文化 1000 年
- ・ (社会)基盤 10000 年

というお話をいただきました。

上述した論文の内容は、AI による効率的かつ公平性の高い社会の形成が基本的なコンセプトとしてあります。AI による社会システムは、グリーンインフラとどのように融合し、文化や社会基盤を取り込めるような仕組みへ発展することができるか、非常に重要な示唆をいただいたと感じます。

今後、この点について、皆様に適宜ご報告・発信し、議論ができるようなプラットフォームを創造していきたいと思えます。